

～ハラスメント防止対策～

2021.7.21発行

何気なく言った言葉も、相手にとっては大きなストレスの原因となることもあります。
職場全体でハラスメント行為を発生させない環境づくりに努めましょう！



★ハラスメントとは★

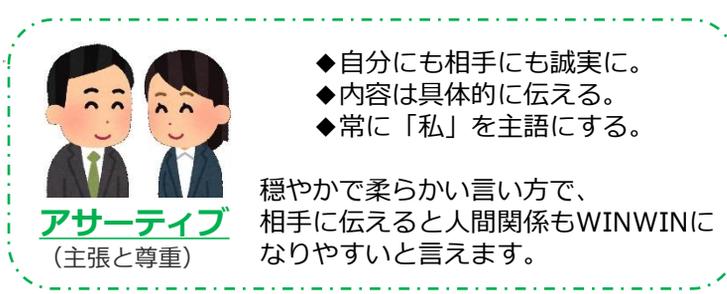
その種類は様々ですが、他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えることを指します。

◆ハラスメントの種類は多く存在しますが、パワハラやセクハラのように、法制化の進んでいるものはわずかしかありません。また、職場で大きな問題になるハラスメントの種類は、大きくわけて以下のようになります。

ー職場で問題になりやすいハラスメントの種類ー

種類	定義	事例
パワーハラスメント (パワハラ)	職場の上下関係を用いて、嫌がらせを行うこと	・数時間にわたって叱責を受け続ける ・業務に必要な情報を与えない
モラルハラスメント (モラハラ)	精神的な嫌がらせ・暴力を示す 上下関係は存在せず、「いじめ」に近い概念	・職場ぐるみで、特定の人物を無視する ・同僚からの挨拶に返事をしない
ジェンダーハラスメント (ジェハラ)	性別に基づいて、採用昇進職務で不平等な対応を行うこと	・女性のみにお茶くみ業務をやらせる ・男性だけにおもい荷物を持たせる
セクシャルハラスメント (セクハラ)	性的な嫌がらせや不愉快を与える発言を行うこと	・恋人の有無等、性的な事実関係を執拗に尋ねる
マタニティハラスメント (マタハラ)	妊娠・出産で不利な就業環境を強いられたり、 制度を利用しないように迫ること	・育休休暇を取得させない ・妊娠による退職を迫る
ワクチンハラスメント (ワクハラ)	ワクチン接種の強要、 同調圧力・差別・不利益的取扱いを行うこと	・接種をしない人の異動勧告、求職や退職 といった差別を行う

◆コミュニケーションのスタイルは大きく3つのパターンに分かれると言われます。



「アサーティブ・コミュニケーションが注目されている理由」

◎人間関係の改善・向上、精神的な健康を保つ、ストレス軽減、ハラスメント対策として有効などがあります。

※ハラスメントの加害者、被害者にならないためにも
「アサーティブ・コミュニケーション」を実践するようにしましょう！！



～ハラスメント対策のポイント～

❁ ハラスメントに関する正しい知識を身につけること。

正しい知識を全員が持ち、常に全員がハラスメントリスクに対するアンテナを張っている状態をつくる。

❁ シグナルを見逃さない風土をつくる。

従業員同士でお互いの変化に気づきあえる風土作り。

❁ 風通しのよい職場をつくる。

上下関係や部署の隔てなどを気にせず従業員同士が意思疎通できるような環境。



❁ 自分の常識と相手の常識は異なることを強く認識する。

自分にとっての当たり前が相手にとって当たり前とは限らない。
「自分の考え＝正解、ではない」という事実を受け止める。

日々他者への思いやりと配慮をもって行動することこそが、ハラスメントの防止において、最も重要です。

※健康についてのご相談は [こちらまでご連絡ください。](mailto:corona@corona.go.jp)
フリーダイヤル ☎0120-106935



【新型コロナウイルスについて】

変異株は、強い感染力を有しています。
引き続き、**不要不急の外出、都道府県間の移動**は控えてください。
テレワークの実践もお願いします。

日常編

◆ 再拡大防止のための日常生活のあり方 ◆

～ポイントをおさえた生活～



外出は**すいた時間と場所**を選んでください。
特に平日・休日ともに
混雑した場所での食事は控えてください。



仕事は組織トップが決意を示し、**リモートワーク**を推進してください。

再びの感染拡大を防ぐには、これからも皆さまのご協力が必要です。
一人ひとりの意識が、再びの感染拡大を防ぐことにつながります。

詳細URLは
こちら



<https://corona.go.jp/>

